

開講科目名 / Course	コミュニケーション論	
ターム・学期 / Term・Semester	2025年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	1	
主担当教員 / Main Instructor	関根 剛	
担当教員名 / Instructor	関根 剛	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	情報を「受信し」「理解し」「発信する」という視点からコミュニケーションを理解することを目的とする。情報の「受信」は「行動観察」、「理解」は「グループエクササイズ」、「発信」は「プレゼンテーション・スキル」で取り扱う。更に、「コミュニケーション」「プロセスレコード」で受信・理解・発信の流れを、「文化」で個別性、「リーダーシップ」で集団との関わり方について理解する。	
到達目標	1. コミュニケーションが受信、理解、発信で成り立つことを説明できる。 2. 自分が感じたり考えたりしていることに関心を持ち、言葉で表現できる。 3. 自分と異なる他者の価値観や知識、考え方の違いを列挙できる。 4. 自分の考えを効果的な方法を用いて表現できる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性	
授業計画	01. 文化とコミュニケーション：異なる価値観に関わる 02. グループ・エクササイズ：自己理解を深める 03. プレゼンテーション・スキル（1）：情報を発信する 04. プレゼンテーション・スキル（2）：人前で話す・表現する 05. 行動観察：情報を受信する 06. 話を伝える・話を受ける：報告・指示・依頼 07. プロセスレコード：情報の受信・理解・発信の流れを理解する 08. リーダーシップとメンバーシップ：集団における役割	
その他の授業の工夫	・グループエクササイズやプレゼンテーションを通じて、体験的に自己理解を深める。 ・演習や話し合いを通じて、他者との違いに気づき、それを共有する機会を持つ。 ・前回の学習の疑問点などについて、回答をする時間を持つ。 ・毎回の知識確認テストや任意のミニレポートの機会を持つ。	
時間外学修	事前学修：次回の学習内容について配布資料を用いて予習する（7h）。 事後学修：小テストの実施。講義関連資料により理解の幅を増やす（15h）。	
評価方法と評価割合	毎回の知識確認テスト・小レポート6割、総合レポート4割。	
テキスト	テキストは使用せず、毎回、ハンドアウトを配布する。	
参考書	対人援助の現場で使える 聴く・伝える・共感する技術 便利帖（翔泳社）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	関根剛：臨床心理士、電話相談SV
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	カウンセリングの実践、相談員育成の教育研修に携わっており、これから対人援助職となる学生の自己理解のグループワークやコミュニケーションスキルを効果的に行う。	